

経済・金融 フラッシュ

ユーロ圏GDP(2023年10-12月期) —ほぼゼロ成長の傾向は変わらず

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

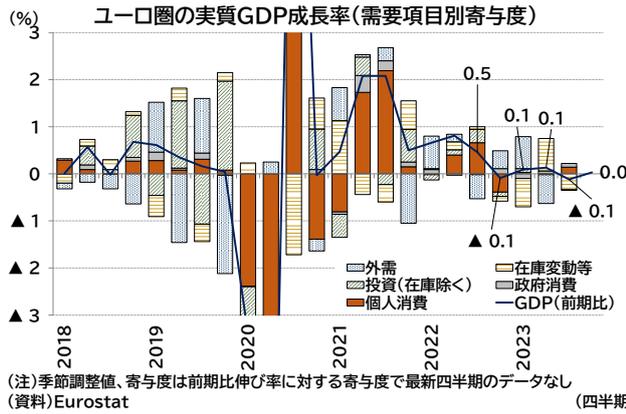
1. 結果の概要:前期比ではごく小幅なプラス

1月30日、欧州委員会統計局(Eurostat)はユーロ圏GDPの一次速報値(Preliminary Flash Estimate)を公表し、結果は以下の通りとなった。

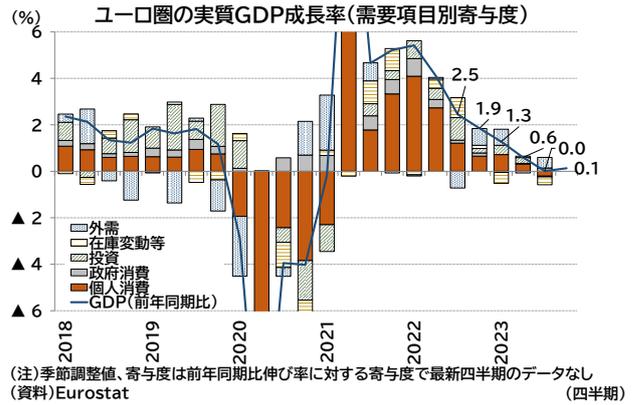
【ユーロ圏20か国GDP(2023年10-12月期、季節調整値)】

- ・前期比は0.0%、市場予想¹(▲0.1%)を上回り、前期(▲0.1%)から改善した(図表1)
- ・前年同期比は0.1%、市場予想(0.1%)と一致、前期(0.0%)から上昇した(図表2)

(図表1)



(図表2)



2. 結果の詳細:エネルギー危機以降のゼロ成長傾向は不変

ユーロ圏の23年10-12月期の成長率は前期比0.0%(年率換算0.1%)とごく小幅のプラス成長となった。ユーロ圏ではロシアによるウクライナ侵攻後のエネルギー危機の影響が深刻化した、昨年夏以降の成長率はほぼゼロであり(22年10-12月期は前期比▲0.1%・年率換算▲0.4%、23年1-3月期は前期比0.1%・年率換算0.4%、4-6月期は前期比0.1%・年率換算0.5%、7-9月期は前期比▲0.1%、年率換算▲0.5%)、今期もその傾向は変わらない(図表1)。昨年夏(22年7-9月期)対比の実質GDPの水準は、0.0%でほぼ同水準となる。なお、コロナ禍前(19年10-12月期)対比では3.0%となった。

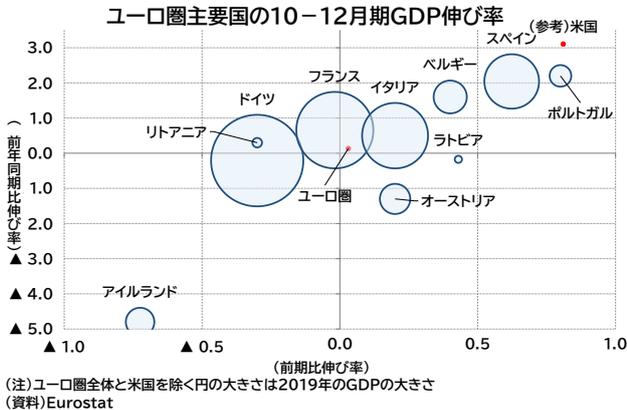
経済規模の大きい4か国の伸び率を見ると、前期比ではドイツ▲0.3%(7-9月期0.0%)、フランス0.0%(7-9月期0.0%)、イタリア0.2%(7-9月期0.1%)、スペイン0.4%(7-9月期0.6%)

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想も同様

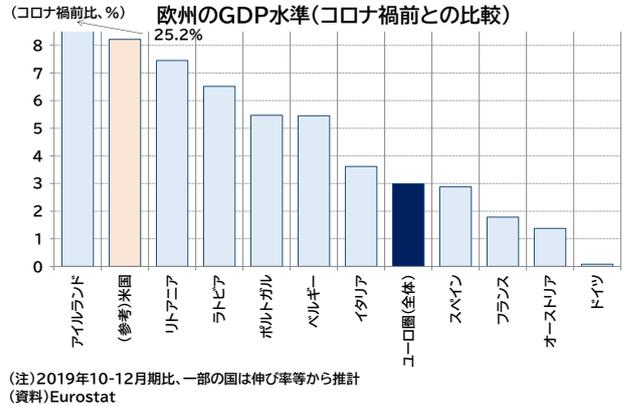
となり、スペインを除き低迷が目立ち、またいずれの国も7-9月期から減速している。なお、ドイツ統計局は建設・機械投資の低迷、イタリア統計局は供給面では工業とサービス業が、需要面では純輸出の寄与が成長を押し上げた点を指摘している（フランス・スペインは後述）。その他の国では、ポルトガルやベルギーが相対的に底堅いが、オーストリアは低迷している（図表3）。

コロナ禍からの回復具合ではフランス・オーストリア・ドイツの遅れが目立つ（図表4）。

（図表3）



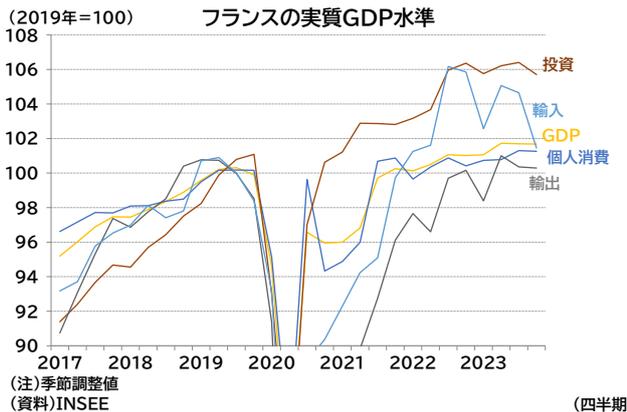
（図表4）



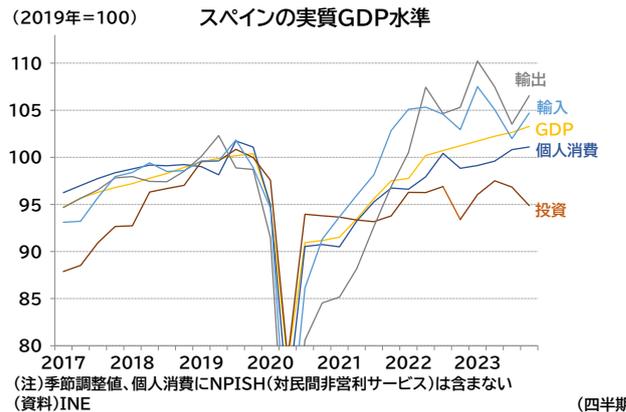
次にフランスとスペインは各国統計局（フランス国立統計経済研究所（INSEE）、スペイン統計局（INE））がGDPの詳細を公表しているため、以下で見ていきたい。

フランスの成長率（前期比）を需要項目別に見ると、個人消費▲0.0%（前期0.5%）、政府消費0.3%（前期0.3%）、投資▲0.7%（前期0.2%）、輸出▲0.1%（前期▲0.6%）、輸入▲3.1%（前期▲0.4%）となった（図表5）。在庫変動の前期比寄与度は▲1.1%ポイント、純輸出の前期比寄与度は1.2%ポイントであり、内需や輸出の弱含みが確認できる。産業別の付加価値は、工業が0.1%（前期▲0.2%）、建設業が▲0.8%（前期▲0.4%）、市場型サービス産業▲0.0%（前期0.0%）、非市場型サービス▲0.0%（前期▲0.1%）となり、全体的に停滞している。細かい業種では、住居・飲食業が前期比▲1.0%と低く、芸術・娯楽・家計向けが前期比0.6%と高めの伸びを記録した。

（図表5）



（図表6）



スペインの成長率（前期比）を需要項目別に見ると、個人消費0.3%（前期1.2%）、政府消費1.4%（前期1.4%）、投資▲2.0%（前期▲0.7%）、輸出2.0%（前期▲3.7%）、輸入2.7%（前期▲2.9%）となり、消費や投資といった主要内需項目が力強さに欠ける（図表6）。産業別には、工業が2.4%（前期▲0.6%）、建設業が0.6%（前期▲0.7%）、サービス業が0.2%（前期1.0%）だった。細かい業種で見ると前期の反動もあり芸術・娯楽業（▲7.4%、前期11.8%）が低迷した。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。